

模擬試験 8：解答解説と採点のポイント

問 1：下線部(a)「知的な怠惰」の理由（150 字以内）

解答例： 特定の国や企業を「悪役」と見なして批判することで、自分たちは何も変わらずに済む安易な解決策に逃げ込んでいるからである。対立の背景にある各国独自の利益や、歴史的に形成された異なる「正義」が複雑に絡み合っているという現実を分析することを放棄し、知的労働を省いている態度を指しているため。（148 字）

問 2：下線部(b)「相克（ジレンマ）」の内容（200 字以内）

解答例： 地球全体の生存のために環境保護（価値）を優先すれば、貧困脱却を目指す途上国の経済成長（利益）という希望を奪うことになり、逆に開発を優先すれば人類全体の生存基盤が失われるという、二つの要請が両立しない矛盾した状態のことである。どちらの主張にも正当な理由があり、単純に一方が正しいと断定できない「あちらを立てればこちらが立たぬ」という、解決が極めて困難な対立構造を指す。（197 字）

問 3：環境問題への向き合い方と自画像の更新（600 字以内）

解答例： 私は、環境問題に対して、他国の責任を追及する前に、自らの生活が他者の犠牲の上に成り立っているという事実を直視し、「自画像を更新」し続ける姿勢を持つべきだと考える。 私は以前、ニュースで途上国の森林破壊を見た際、それを現地の無計画な開発のせいだと思い込んでいた。しかし、学校の探究活動を通じて、その森林が伐採された後の土地で作られている農産物や資源の多くが、私たちの安価で便利な消費生活を支えるために日本へ輸出されていることを知った。この時、私は「環境を愛する日本人」という自らが描いていた綺麗な自画像が、他国の環境破壊という鏡に照らされて崩れるのを感じた。他国の苦境は、私の「豊かさ」が生み出した表裏一体の結果であったのだ。 課題文にある「自画像を描き直す」とは、こうした他者との遭遇を通じて、自分の常識や欲望を相対化する「知的労働」である。自分たちの利益が他者の正義（生存権）を脅かしている可能性を常に自覚し、安易な善玉・悪玉論に逃げ込まずに、自分たちの「豊かさ」の定義を修正していかなければならない。 島根県立大学では、国家間の利益と価値が衝突する境界線において、いかに双方が妥協できる調整点を見出すかを学びたい。自らの権利を主張するだけでなく、他者の正義に耳を傾け、自らを更新し続けることで、持続可能な国際社会の構築に寄与したい。